

## 岡山大学の理念，目的等

### 1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的，持続的に進展させるためには，常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。岡山大学は，公的な知の府として，高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

### 2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は，「自然と人間の共生」に関わる，環境，エネルギー，食料，経済，保健，安全，教育等々の困難な諸課題に対し，既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ，人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため，我が国有数の総合大学の特色を活かし，既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして，高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

### 3 岡山大学の教育理念・目標

岡山大学は，大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として，学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに，学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて，個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し，国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

#### 教育理念

- ・ 自然と人間の共生を希求する。
- ・ 多様な文化・価値観を尊重する。
- ・ 地域と世界の発展に寄与する。

#### 教育目標

- ・ 探求・創造する知性の育成 —自ら問いかけ学ぶ教育—
- ・ 豊かな教養と高度専門性の追求 —知の体系に根ざし専門を伸ばす教育—
- ・ 異文化理解に基づいた国際性の獲得 —様々な文化・民族に親和する教育—
- ・ 社会的責任を担いうる個の確立 —自己と他者を認め合う教育—

#### 【参考】岡山大学管理学則（大学院の目的）

第53条 岡山大学大学院は，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥をきわめ，又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い，文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち，学術の理論及び応用を教授研究し，高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは，専門職大学院とする。

## 環境生命科学研究科（博士前期課程）各専攻における人材養成の目的

### 【社会基盤環境学専攻】

本専攻では、人間活動の主要な舞台である都市と農村を対象として、社会経済活動とそれを支える開発が環境に及ぼす影響を明らかにするとともに、環境と調和した地域社会を実現していくための社会基盤と空間の創出、並びに大気、水、土壌、生物等の資源の持続的利用や循環の維持管理に関する計画と技術の発展を担う人材を養成する。

### 【生命環境学専攻】

環境、食料、医療等の国民の安全や安心に関わる課題や問題の解決を目指し、持続可能な循環型社会構築に対して主導的役割を担うことのできる人材育成を目指す。生態学及び社会科学的知識・技能を備えた人材及び環境や医療に関わる幅広い知識を持ち、それに対処するための保健医学、数理科学、統計学などの技術を持った人材を養成する。

### 【資源循環学専攻】

本専攻では、環境負荷を小さくし、資源の枯渇を抑制できる持続可能な社会の構築を目的として、物質・資源のリサイクルの促進、廃棄物の最適管理、より安全で適切な最終処分法の開発等に関するマネジメントの確立、環境低負荷型の材料やプロセスの開発、資源のリサイクルやエネルギー変換技術の開発等について、問題設定と解決に向けた技術開発等の能力を備える人材を養成する。

### 【生物資源科学専攻】

動植物や微生物の生命現象の解明、食に関わる現象の解明や人類の直面している食料・環境問題の解決のために、有機化学、生理・生化学、遺伝・育種学、バイオテクノロジー、グリーンケミストリー等の手法を駆使して教育・研究を行う。このような教育・研究活動を通して、生命科学の最新の知識と高度な専門技術を備え、生物資源の持続的な高度利用や、食料や食品・環境問題などの解決において中心的役割を果たし、国際的にも活躍できる有能な研究者や技術者を養成する。

### 【生物生産科学専攻】

食料の生産と分配、生物多様性の解明とその維持等、生物生産科学に関わる問題が地球規模で深刻化しつつある。それらを解決するために、動植物や微生物の生産に係わる多面的な知識を基盤として、基礎から応用、さらに、生産の場から流通にいたる総合的視点に立脚した教育と研究を行う。これによって、広範で深い専門的な知識を持ち、問題解決能力及び研究開発能力を備える人材を養成する。

## 環境生命科学研究科（博士後期課程）各専攻における人材養成の目的

### 【環境科学専攻】

「持続可能社会構築」を共通する学問理念として、環境と調和した都市・地域空間の創出と管理、生物多様性や生態系保全、食糧問題、医療の疫学・数理科学的な側面、循環型社会及び低炭素社会の構築、環境低負荷型材料やプロセスの創成等に関わる課題の解明を進めている。このような環境科学に関する幅広い分野の教育と研究を通じて、持続可能社会の構築を自立して遂行する能力とそれをささえる豊かな専門的知識を有し、さらに、リーダーシップを発揮し、国際的にも活躍できる研究者や高度専門職業人を養成する。

### 【農生命科学専攻】

生態学、生理学、細胞生物学、遺伝子科学、生化学、有機化学、分析化学などの手法によって生命現象を解明する基礎分野から、動植物や微生物を利用した生産技術や環境保全技術の開発、機能性食品素材・医薬品の開発及び生物の多様性の維持などの応用分野に関する教育・研究を行う。このような教育・研究活動を通じて、直面する課題の解明を自立して遂行する能力とそれをささえる豊かな専門知識を有し、リーダーシップを発揮して、国際的にも活躍できる高度な研究能力と豊かな創造性を備えた人材を養成する。